

国 労 東 海 貨 物 協 議 会 第 3 3 回 定 期 委 員 会 開 催

11月6日(水)14時から静岡交通ビルにおいて、東海貨物協議会第33回定期委員会が開催され、委員及び役員、来賓、傍聴の22名が参加する中、「安全・安定輸送の確立」「労働条件改善」「貨物鉄道政策の実現」「平和憲法と民主主義擁護・発展」「組織強化・拡大」等、一年間における闘いの経過と、向こう一年間の闘う方針の確立に向け真剣な討論を行ってきました。

委員会は、小川副議長の司会で開会し、委員会議長に静岡総鉄の高田委員が選出され議事が進められました。



(東海貨物協鈴木議長)

鈴木議長の挨拶では、一年間の活動を総括した上で「国内の政治状況、貨物会社の動向、中期経営計画2023、19春闘の総括、年末手当満額獲得の闘い、新人事賃金制度の問題点、自然災害による影響、労働条件改善、要員不足問題、組織強化・拡大、次期ダイヤ改正、支社交渉の強化」等について報告と決意が述べられました。



(東海本部上野委員長)

来賓挨拶では東海本部上野委員長から「東海本部定期大会の報告、組織拡大の継続、新人事賃金制度、構造矛盾改善の必要性、20春闘の闘い、安倍政権の動向と改憲、機関活動の活性化、国労運動の継承」について、全貨協眞田副議長から「全国貨物協議会定期委員会の報告、貨物会社の経営状況、中期経営計画2021・2023、年

末手当満額回答獲得に向けた闘いの交渉経過と運動強化要請、新人事賃金制度の交渉及び現状、自然災害による影響と旅客鉄道の計画運休への対応方、組織強化・拡大、職場での闘いの重要性」について、交運共済菅沼本部長から「自然災害による被害の実情と地震風水害共済への加入要請、新たな経営計画」について述べられました。その後、加藤事務長より2018年度経過報告及び2019年度運動方針(案)が一括提案され一般討論へと移りました。



(全貨協眞田副議長)

討論では、「年末手当の闘いについて」「旅客鉄道の計画運休に対する勤務の在り方」「稲沢駅構内入換の熱中症対策」「構内入換作業の変更」「強風時における業務への対応方」「シニア社員の労働条件改善」「昇進試験への対応」「各種研修と業務研究会の対応」等、多数の委員から報告や質問・要請などが出され、全貨協からの答弁及び加藤事務長からの全体集約を受け、満場一致で今年度の闘う方針を採択し、鈴木議長の力強い『団結ガンバロー』の三唱で今後の奮闘を誓い合いました。又、年末手当の闘いとして、今委員会名で貨物会社社長宛に「年末手当満額獲得に向けての寄せ書き」を作成し、参加者全員の思いを記入しました。

その後、場所を移した懇親会では、全国情勢等の質問や職場の問題などの話が各所で盛り上がり、更なる組織の拡大に向けて闘うことを誓い合い、全日程を無事終了しました。

<2019年度新役員>

議 長	鈴木和巳	59	沼 津 駅
副 議 長	大金健治	55	稲沢機関区
	小川敏広	43	富 士 駅
事 務 長	加藤広明	56	稲沢機関区
幹 事	堀江秀一	60	出向・名高
	多賀 明	57	愛知機関区
	工藤拓真	26	静岡・運転
会計監査	井上 守	56	稲沢機関区
	西川哲英	43	静岡・運転